

1.件名	2.4 その他（資源回収、河川、森林等を含む）
2.事業名	2.4.5 環境装置産業における水処理技術開発に係る調査研究 1999（H11）～2000（H12）年度
3.キーワード	環境装置産業、水処理、膜分離、促進酸化、生物処理、上水処理、下水処理、し尿処理、ビル排水、廃棄物、微量有害物質、セレン、ほう素、ふっ素、ダイオキシン
4.目的	<p>近年、水処理技術をめぐる環境が急速に変化している。従来の排水処理は COD、BOD、SS などの環境汚染の軽減に重点が置かれていたが、最近では産業活動に伴う環境ホルモン、ダイオキシン、微量有害物質などに対する対策が緊要になってきている。また、排水処理に伴う廃棄物の処理再資源化によるゼロエミッション化技術など、環境負荷が少ない技術の開発が求められている。</p> <p>そのため、膜分離技術、促進酸化、生物処理等の最新の技術を用いて、水処理における微量有害物質の除去及びこれらの水処理にともなう廃棄物等のゼロエミッション化に関する技術について調査研究した。</p> <p>平成 11 年度は、上水処理、下水処理、し尿処理、ビル排水再生処理、廃棄物処理に伴う廃水処理、海水淡水化の各技術のほか、問題となっているセレン、ほう素、ふっ素、ダイオキシン等の微量有害物質とその処理の現状について調査するとともに、膜分離法による有害物質除去及び二次生成廃棄物等の処分に関する研究状況と技術課題について、調査の取りまとめを行った。</p> <p>平成 12 年度は、環境への排出が問題となる微量有害物質とその処理の現状について調査するとともに、高濃度オゾンを用いた酸化法による有害物質除去の可能性を調査し、安全性を確保しながら高効率な分解除去を達成できる技術の開発が必要であることが提言された。またオゾン酸化法などでは除去できない窒素・リンの処理技術に関する研究状況と技術課題について、とりまとめを行った。</p>
5.参照	委託：（社）日本機械工業連合会